

「おおきくなるっていうことは まわりにやさしくなれるってこと」

みなさん、元気になっていますか。ゴールデンウィークが明けましたね。今年のゴールデンウィークは、いつもとは違った雰囲気でご過ごしたかと思います。先生たちも、できることを色々と考えています。離れていても、みなさんを少しでも支えていくことができればと考えています。みなさんも、今、自分にできることを考えて行動していきましょう。

さて、みなさんは5月1日に出た学年通信を読みましたか。今回は「おおきくなるっていうことは」の内容でしたね。今回、先生もこの学年通信を読んで「おおきくなる」とは、どんなことなのかなと考えてみました。今まで、考えてみたことがなかったので、色々と考えてみました。

最初に考えたのは、身体の成長です。通信にも似たことが書いてありましたね。先生には子どもがいます。いつも見ているので、大きくなっているのか気付かないこともあります。しかし、以前まで着ていた服が着られなくなったり、靴のサイズが大きくなったり、様々なところで身体について「おおきくなる」を感じます。

次に考えたのは、我慢したり、自分を出さなくなったりするということです。大きくなると、周りを見て行動できるようになります。そんな時、我慢することで、その場を乗り越えたり、誰かのために自分の主張をしないでおいたり、自分を出さなかったり、我慢したりすることが増えます。これは、かなり大きくならないとできないことです。もしかしたら、もうできている人もいるかもしれませんね。周りのことを考えて、自分を犠牲にすることができるというのは、なかなかできないことです。素晴らしいことです。でも、実はこれは危険なことでもあります。自分が我慢すればいいと思っていると自分が苦しくなります。誰かのためを思って行動できることは素晴らしいことですが、自分のことも大切に考えてできるといいですね。また、もしかしたら自分の考えは、正しいことかもしれません。その場合、自分が我慢すればと考えてしまうと、間違った方向に流れていってしまいます。しっかりと判断して、行動できるといいですね。実は、これについても同じようなことが通信に書いてありました。

最後に考えたのは、先生の中で一番すっきりした「おおきくなる」でした。「まわりにやさしくなれる」ということです。通信にも同じようなことが書かれていましたね。先生は「心を敏感(びんかん)にする」という表現を使います。例えば、道にゴミが落ちていたとしましょう。何も気にならない人は、別に何もせず、その場を通り過ぎます。しかし、心が敏感になっている人は「きれいにしなきゃ」「周りが嫌な気持ちになるな」「環境が悪くなるでしょ」などのことを感じ、ゴミを拾うことができます。上級者になると、考えるまでもなく、当たり前のように拾っています。また、トイレのスリッパがそろっておらず、ぐちゃぐちゃだとしましょう。それを見たら何を思いますか。何も思いませんか。それとも、きれいにしなくてはいと思いますか。次の人が、はきづらいなと思いますか。ここで、どう感じるかで心が「敏感」になっているかどうかがわかると思います。心を「敏感」にすることが、周りにやさしくなれることだし、「おおきくなる」ことなのかなと先生は感じました。

長々と書いてきましたが、ぜひみなさんには、見た目だけではなく、心を「敏感」にし、「まわりにやさしく」なってほしいなと思います。